

点から通信

Vol.69

発行日 H29. 11. 1

発行元 なかべこども家庭支援センター

紙風船
かみふうせん

E-mail kamifuusen@river.ocn.ne.jp

http://nakabe-gakuin.org/



STOP 児童虐待



赤ちゃんが泣きやまずにイライラする、子どもは幼くて言ってもわからない、とわかっているのについ口調が荒くなってしまふ。そして、そんな自分に後悔し、落ち込み、育児ストレスを感じている母親はたくさんいます。妊娠、出産、育児期の家庭では周囲の支えを必要としている場合が多いです。子育てに困難を感じているお母さんがいたら声をかけてあげ、相談機関がたくさんあることを教えてあげて欲しいと思います。そのことが虐待の防止につながります。

今もなお、幼い命が奪われる痛ましい事件が後を絶ちません。虐待を受け辛く悲しい思いをする子どもが1人でも少なくなることを願い、「紙風船」では児童虐待防止推進月間の11月に啓発活動を行います。海響マラソンではランナーの方にオレンジリボンをつけて走っていただき、多くの方にオレンジリボンを知っていただきたいと思っています。



オレンジリボンは虐待防止のシンボルマークです。オレンジ色は明るさと暖かさの象徴で、子どもの明るい未来を表す色です。



病院に連れて行くタイミングは、いつなの？



病院に子どもを連れて行った時、「こんな軽い症状で連れて来ないで、ほかの病気もらっちゃうよ」と言われ、しばらく様子を見てから行くと「どうして、こんなになるまで連れて来なかったの」と言われた経験ありませんか？

子どもは急に発熱したり、ぐったりすることがあります。そんな時、親はハラハラし、「痛い」とか「きつい」などの症状を言葉で表現できない赤ちゃんにはもっと不安になります。それが夜中だと病院に連れて行くべきか、朝まで様子を見るべきか、受診するタイミングに悩んでしまいます。食欲はあるか、ぐっすり寝るか、機嫌は良いかは、タイミングを計る目安として観察することは大切ですが、判断できない時は受診し、大したことなければそれで良かったと思えばいいのです。全く病気にならないで育つ子どもはいません。インフルエンザが流行する時期にもなってきます。迷った時は受診し、わからないことは遠慮しないで何でもお医者さんに聞きましょう。病気が重くならなければよいのです。

(文責：高橋)

相談無料

TEL 083-266-1935 下関市彦島角倉町3-6-17

家庭の問題、子どもの問題、子どもの
仲間の問題等、気にかかることがあり
ましたら、お気軽にご相談ください。

「紙風船」利用時間
9:00~17:00
(電話相談は24時間受付)



オレンジリボンたすきリレー in下関2017

より多くの市民の皆様にご関心と理解を深めていただくために開催します。
児童虐待防止の象徴である“オレンジリボン”のたすきをつないで、唐戸周辺を走るリレー部門とカモンワーフ特設会場で啓発活動を行うイベント部門があります。

日時：2017年11月19日（日） 9：00～11：00（小雨決行）

イベント内容案内

オレンジ会場（カモンワーフ特設会場）

勝山会鼓演奏・TEAM T.D.
下関プラス・オーケストラ演奏

リボン会場（関門汽船出口付近）

王喜よさこい・下関市保育連盟

リボン会場付近で、
HAR-A-SYMPHO さんの
バルンアートを、常にやって
いるよ！

是非会場にお越しいただき、
皆様の声援お願いいたします♪

たすきリレーコース

～1区・3区～

オレンジ会場→唐戸市場前→はいからっと横丁前→海響館海側→リボン会場→オレンジ会場

～2区～

オレンジ会場→赤間神宮前→唐戸商店街→山口銀行前→海響館玄関前→リボン会場→オレンジ会場



成長段階における子どもたち（乳児期・幼児前期）

心理士の部屋

○乳児期（0歳～1歳）

生まれたばかりの赤ちゃんでも、人の声や顔に興味を持っています。この時期、赤ちゃんは信頼関係を構築していく時期です。自分の周りに安心できる存在が居るかどうかはとても大切です。特に母親との関係において、赤ちゃんに安心を与えられるコミュニケーションやスキンシップを心がけましょう。赤ちゃんの中に芽生える安心感、信頼関係は子どもが成長したとき、周囲の人とどのような関係を築けるかという土台にもなるでしょう。赤ちゃんのそのままの存在を喜び、受け入れましょう。

○幼児前期（1歳～3歳）

この時期は自立心の芽生えが特徴です。親や周りの人への信頼感を土台に自分で考えて行動し、主張、要求するようになります。この自立心の芽生えで「しつけ」という課題が出てきます。その代表が「トイレトレーニング」です。このトレーニングで、励まし支えることが大切です。叱りすぎると子どもは自分の価値を見失ったり、羞恥心を抱えやすくなります。またこの時期のもう一つの特徴が「いやいや期」です。伝えたいことが伝えられない、自分でしたいのにできないために「いやいや」と表現します。子どもの考えていることを理解し、受容しようとする態度が必要になってきます。